医療安全ニュース 13 期/11 号

13 期総まとめ　医真会 HP で再確認出来ます

13 期事故報告件数：当事者部署×概要別

	薬剤	輸血	治療処置	医療機器等	ドレーンチューブ	検査	療養上の世話	その他	合計
医療情報課	0	0	0	0	0	0	0	2	2
医療安全管理室	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医療連携科	0	0	0	0	0	3	0	0	3
入院前センター	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ＨＣＵ	42	0	5	7	39	0	9	14	116
救急病棟	11	0	1	1	1	2	9	6	31
4 階東病棟	3	0	0	1	2	0	1	4	11
4 階東西病棟	13	0	1	2	11	4	28	40	99
5 階東病棟	3	0	0	2	3	2	29	6	45
5 階西病棟	7	0	1	1	9	2	21	5	46
6 階東病棟	16	1	2	1	3	6	54	16	99
手術室(OP)	2	0	7	18	5	2	0	31	65
中央外来	12	1	3	1	1	15	0	10	43
血液浄化センター	5	1	3	3	0	1	0	3	16
7 階東病棟	0	0	0	0	1	0	1	0	2
7 階西病棟	5	0	0	1	3	1	5	3	18
7 階東西病棟	45	0	4	1	42	1	18	24	135
理学療法科	0	0	9	0	0	0	6	9	24
作業療法科	0	1	3	0	0	1	9	3	17
言語療法科	0	0	0	0	0	0	5	0	5
栄養科	7	0	0	0	0	0	14	1	22
臨床検査科	0	0	0	0	0	5	0	1	6
病理検査科	0	0	0	0	0	3	0	0	3
放射線科	0	0	0	0	2	39	0	3	44
薬剤科	37	0	0	0	0	0	0	17	54
臨床工学科	0	0	2	2	0	0	0	0	4
＊整形外科	0	0	1	0	0	0	0	0	1
＊消化器センター内科	0	0	2	0	0	0	0	0	2
＊脳神経センター脳外	1	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	**209**	**4**	**44**	**41**	**123**	**88**	**209**	**199**	**917**

20220701～20230615　一時保存は除く　　＊医師報告

1 号：13 期医療安全年間計画

医療安全年間計画も 13 期で 5 年目となりました。「部署名・目標・重要成功要因」の順で診療部（医師）も含め総合病院全 27 部署分を掲載しています。**各部署年間安全計画の詳細は職員ラウンジにも掲示**しています。ご確認ください。

2 号：コスメティック・コンプライアンス

コスメティック・コンプライアンスとは、**表向きには“できてます”としていますが、物事の本質が把握されておらず実態は“できていない”**という状態のことを示しており、常態化することで患者安全が脅かされる可能性について述べています。

3 号：エマージングリスクの未然防止

事故報告は「エマージングリスクの未然防止パラドックスを正す可能性がある」という意味でも重要な役割を果たしている、と解説しています。

4 号：医療事故調査制度 施行 8 年目

制度施行から 8 年が経過し改めて仕組みの解説と、カルテ記録の重要性について述べています。

5 号：リラクセーションと呼吸法

呼吸法を上手く活用することでリラクセーション効果が得られることと、直ぐに実践できる呼吸法について解説しました。

6 号：第 2 回　患者確認実態調査アンケート結果報告

回答率は 79.4%と、多くの職員からご協力をいただきました。**患者確認はフルネームを意識し患者でも対象物でも相互に照合・確認を実践する事が肝要**です。患者誤認は重大事象に繋がる可能性があります。

7 号：2022 年 年間事故報告統計　前年度と比較し件数が減少しましたが、コロナ禍での患者数減少がそのまま反映された結果と推測されます。中でもエラーが事故に繋がっていない**レベル 0:ゼロの報告が増加しており職員の安全に対する意識向上が示唆されます。**

8 号：共有意思決定支援 (Shared decision making：SDM)とは？　医療・介護において患者と医療従事者やケア専門職 2 名以上が協力し意思決定を行うことを指します。**SDM とは、患者中心医療の一つのアプローチであり、患者が自分自身の病気や状態について理解し、選択肢を持ち、その中から最適な治療方針などを決定するプロセスを支援するもの**です。

9 号：注意喚起！当院での患者取り違え事例 2023 年 4 月版　当院で実際に発生した患者誤認事象の中から、**警鐘的事例 3 つを提示し対策のポイントを解説**しています。

10 号：心理的安全性と医療安全について　心理的安全性の定義は、**「率直に発言したり懸念や疑問やアイデアを話したりすることによる対人関係のリスクを、人々が安心して取れる環境のこと」**とされています。心理的安全性が担保されていれば、職員全員が他者からの批判などのリスクを感じないことで、自発的にそして主体的に改善点を指摘し適切な未然防止策を検討します。**事故報告を躊躇無く提出できる、エラーを発覚させ有害事象に繋げない仕組みを作る、といった基本的な安全行動を実践することに繋がる**ことを解説しました。

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。

2023/6/16　医真会八尾総合病院　医療安全管理室　　8 年間ご協力ありがとうございました。これからもご安全に。　K.N.